

泊発電所3号炉審査資料	
資料番号	資料10
提出年月日	令和5年3月2日

泊発電所3号炉 今回提出の審査資料に対する記載適正化予定リスト
有効性評価 格納容器過温破損／水素燃焼

No.	条文	まとめ資料 ページ番号	比較表 ページ番号	適正化予定内容
1	過温破損	7.2.1.2-3	5	以下の記載を修正する。(下線部参照) (旧) <u>15名</u> で対処可能である。 (新) <u>16名</u> で対処可能である。
2	過温破損	-	添7.1.2.2.2-16	以下の記載を大飯欄に追加する。 【参考のため玄海3 / 4号炉の記載を掲載】 (b) その他の付属品 加圧器逃がし弁の作動に影響する付属品として、別図3に示すように電磁弁、エアフィルタ及びケーブルがあるが、以下のとおり、これら付属品が熱影響により機能損失することはない。なお、加圧器逃がし弁の付属品として、リミットスイッチもあるが、リミットスイッチは弁の開閉表示を示すための付属品であり、作動に影響するものではないが、最高温度約190℃の試験温度で健全性を確認している。 i) 電磁弁、エアフィルタ 電磁弁、エアフィルタは、熱源からの距離が約500mmのフレーム部にブラケットを介して設置されているが、この取付け位置のフレーム部温度は、別図2より約170℃程度である。 電磁弁は、別紙4に示すとおり、最高温度約200℃の試験温度で健全性を確認している。 エアフィルタについては、別紙5に示す通り、同じフィルタ及びシール材を使用したフィルタ付き減圧弁が最高温度約190℃の試験温度で健全性を確認している。 よってこれら付属品が熱影響により機能損失することはない。 ii) ケーブル ケーブルは、熱源からの距離が約500mmのフレーム部にブラケットを介して設置されている電磁弁に接続されており、ケーブル温度を安全側に電磁弁の取付け位置のフレーム部温度とすると、別図2より約170℃程度である。 ケーブルは、別紙6に示すとおり、最高温度約190℃の試験温度で健全性を確認している。 よってケーブルが熱影響により機能損失することはない。
3	水素燃焼	7.2.4-26,27	40	以下の記載を修正する。(下線部参照) (旧) ディーゼル発電機燃料油貯油槽にて約540kLの軽油を保有しており、これらの使用が可能であることから、ディーゼル発電機による電源供給、 <u>緊急時対策所への電源供給及び可搬型大型送水ポンプ車による補助給水ピットへの蒸気発生器注水用の海水補給</u> について、7日間の継続が可能である(合計使用量約534.5kL)。 (新) ディーゼル発電機燃料油貯油槽にて約540kLの軽油を保有しており、これらの使用が可能であることから、ディーゼル発電機による電源供給 <u>及び緊急時対策所への電源供給</u> について、7日間の継続が可能である(合計使用量約534.5kL)。

No.	条文	まとめ資料 ページ番号	比較表 ページ番号	適正化予定内容
4	水素燃焼	-	添7.2.4.12-1	以下の記載を修正する。(下線部参照) (旧) (<u>泊と同じ資料構成のプラントあり?</u>) (新) (<u>川内と同様</u>)